

1996年7月発行
第53号

おたより

発行者
嬉泉後援会
世田谷区船橋1-30-9
TEL 3426-2323



だーれが子どもか せんせいか ……………

—のびろ学園内 築山で—

生活史をたどるということ

東海大学健康科学部
教授 小林隆児

人はみな各々異なった生活史をもっている。そんなことは分かったことである。しかし、われわれが自閉症の人々を理解しようとする際に、そのことがどのような意味をもっているかを分かっている人は多くはないように思う。自閉症といわれる人であってもわれわれと同じ人間である。そんなことも自明のことであるのだが、自閉症の子どもをいかにしたらよりよく理解できるだろうかと考えるときにはそのことがどうも忘れ去られている。あまりにも自閉症の障害特性ばかりにみんなの(養育者も含めて)関心が向かいすぎている。彼らの情緒発達に視点を当てれば、彼らの家族の生活史のことも意味がとてよくわかるようになるだろう。その人の生活史を抜きにして人を理解することは難しい。人間みな生い立ちには異なっているのだから。究極的には完全な理解はありえないとしても。人間の健康な側面に光を当てることに存在意義をもつ福祉現場の人達にとってこのことはとても重要なことのように思う。